



本荘マリーナと市街地

本荘由利圏の中核都市としての役割を担う本市の将来像を描いたのが「本荘ふれあい21計画」です。

本荘ふるさと会報

二十一世紀に向けて発展する本荘市の基本構想と歴史・観光名所、懐しい本荘ことばなどを紹介します。

21世紀に向かってスタート

基本構想 「本荘ふれあい21計画」を策定

来るべき二十一世紀に向けて、本荘由利圏の中核都市としての役割を担う本市の将来像を描いたのが「本荘ふれあい21計画」です。

この計画では二十一世紀が始まる平成十二年度から十五年度を目標年度と定め、本市まちづくりの目標としての五本の柱を掲げ、市民と行政とが共通の目的意識を持ちながら本市のまちづくりを進めています。

I 本荘由利圏の核となる地方都市としてのまちづくり

本荘由利圏の核となるまちづくりの一環として、駅東地区における市街地開発や、都市計画街路網の整備等都市計画事業の推進を行います。

また、商店街の再開発や公営住宅の整備、海洋レジャー・レクリエーション地の整備を促進。さらに、安全・快適な生活基盤として下水道、防災対策、歩道設備、ガス・水道の整備、充実を図ります。

II ひらかれた地方都市の形成を目指す交通通信体系の確立

地域の発展に不可欠な日本海沿

岸東北自動車道の早期実現と国、県、市道が効果的に連結する龟甲型外環状線道路の整備、輸送機関の充実、情報化への対応を促進します。

III 活力ある地方都市の実現のための産業振興

産地間競争に勝ち抜くブランド農業の確立とともに、林業・水産業の一層の振興を図ります。

また、ハイテクコストを核としたハイテク産業の拠点形成や商業経営の充実、さらには体験型観光の整備と物産の振興を目指します。

V 健康で暮らしやすい地方都市の創造

高齢者が生きがいをもって生活できる施策の充実や要援護者の支援、地域医療の充実、健康づくりと社会保障の充実を推進。

快適な市民生活を実現するため、消費生活の安定や、環境衛生の充実、公害の防止、交通安全の推進を図ります。

V 心豊かな地方都市をつくる教育・文化・スポーツ活動の充実

生涯学習の充実と、城下町と港町として発展してきた地域特性を踏まえた文化の振興、さらには、公園、スポーツ・レクリエーション施設の整備、市民の生涯スポーツの振興を図るほか子吉川の環境整備を推進します。

以上のような計画でまちづくりを進める訳ですが、本市が二十一世紀に向って進む道を示したこと

で、今後はその具体化に向けて市民の皆さんといっしょに努力していきます。

ふるさと本荘へのいざない

本荘のはじまり
本荘が史書にあらわれた最も古い記録は、「続日本紀」宝龜11年(780年)の項にある由利柵である。柵の場所や規模は未だ明らかでないが、子吉川の河口に近い本市の一部にあつたとするのが定説になっている。

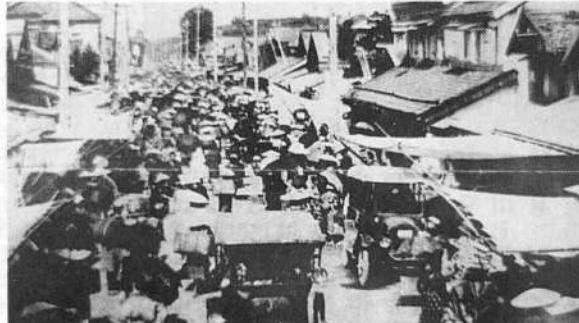
その後本市を含む由利地方は、奥州平泉の臣、由利八郎の領地であつたが、藤原氏の没落後、由利氏は所領を没収され、鎌倉幕府の女官・大貳局が領主となつた。この後、中世の由利地方は豪族の割拠する時代、いわゆる由利十ニ頭の抗争が続いたが慶長7年(1602年)由利一円は最上氏の所領になり、江戸時代に入つた慶長8年、最上義光の重臣・本城豊前守満茂が由利5万5千石の領主となつて、赤尾津城に入部した。その後満茂は統治の中心を尾崎山に定め、本城の築城を開始し、慶長17年に土塁と堀による名城を完成させた。それまで小石郷の一角であったこの地は、かくて本城豊前守満茂によって城下町として創建され、現在の本荘の地名もこの「本城」に由来するといわれている。

六郷政乗と本荘

満茂の治世20年に及んだ元和8年(1622年)最上氏の改易により満茂も酒井氏(前橋)預りの身となり由利から退去した。

その後、由利の地は六郷政乗が本荘2万石に、岩城吉隆が龜田2万石、仁賀保誠が仁賀保1万石、内越左近が矢島3千石やがて矢島には高松城主・生駒高俊が矢島1万石の領主となるに及んで、由利は本荘、岩城、矢島の3藩時代が続いた。

現在の本荘市は、六郷氏が所領した大部分と、岩城氏の領地の一部からなっているが、戊辰戦争で



大正初期の大町朝市の賑わい

本荘の沿革

昭和6年、新由利橋と木橋の旧由利橋



「ほんじょう」の観光と名所

本荘城址である本荘公園は、市の中心部に位置し、市民に憩いの場を提供しています。春の訪れを告げる桜の花、そして、その後を

追うように咲き誇るつつじの花は公園全体を鮮やかに彩ります。

また、市の花の「菖蒲」は夏の大レジヤー基地

株が植栽されている菖蒲公園は、

遠く県内外の観光客をも集め、その見事に咲き乱れる花々は、訪れる人々に好評を博しています。

夏の夜空を色どる本荘川まつり

花火大会は、毎年七月最終土曜日に開催され、約三千発の花火が子

吉川飛鳥大橋付近で打上げられます。特に今年は第四十回の記念企

画としてレーザー光線ショーが催

され、灯籠流しと共に一層の盛り

上がりを見せました。また会場に隣接する由利中央線では、今年で五回目を迎えた「菖蒲カーニバル」

が催され、市内の愛好者事業所な

どのグループ約二千人が参加し、

ミス菖蒲とともに、菖蒲音頭に合

わせて踊りの華を咲かせました。

花火大会と並んで本荘の夏を代

表するものに、東北日本海随一の

花火大会と並んで本荘の夏を代

表するものに、東北日本海随一の

花火大会と並んで本荘の夏を代

表するものに、東北日本海随一の

花火大会と並んで本荘の夏を代



日本三大長谷觀音(北内越)赤田大仏

本荘の話しことば

1 秋

「まんづまんづひやしぶりでがんすこと。おまめでんしたが?」「はあ、おがげさんで」「秋深まって、紅葉きれいでがんすな」「わだしもこねだ町内の人ださかだしそで貰つて、八幡平さ行つて来あんしたおの。このましくれえて写真コえつべ撮つて來あんしたハ」「えがんすな。このちぎどこが行くどぎ、わだしどこもかでで下はれ」「えっしょに行きあんほな」

本荘市五軒町 佐藤勲子(主婦)発行「本荘の話しことば」より掲載

編集後記

四苦八苦しながらも、ようやく創刊号の発行ができました。今後、年2回の発行を予定していますが、末広がりとなるよう素人編集員一同努力してまいりたいと思います。ふるさとの今昔をどしどし紹介していただきたいと思いますので、皆様のご寄稿をお待ちしています。後藤竹清先生から立派な題字を揮毫いただきました。紙面を借りてお礼申しあげます。